

大阪有機化学工業株式会社	
2020年11月期第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2020年7月3日(金) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区日本橋1-9-1; 野村証券本館6階) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2020年11月期 第2四半期 決算説明会資料」(2020年7月2日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	セグメント別の営業利益の増減要因は？
A-1	<p><化成品> 利益増の要因は原材料の価格ダウン、原油安によりナフサ価格が下がったことと、天産物の原料価格が今期に入って大きく下がった。原料費は全体で5億円ほど下がったが、半分くらいは化成品の原料。</p> <p><電子材料> 表示材料、半導体材料の販売が増えた。特に半導体材料の伸びが大きい。</p> <p><機能化学品> 昨年は米中貿易摩擦での影響で特に悪かった。また、化粧品添加剤が堅調に推移したことも大きい。</p>
Q-2	電子材料事業の販売が伸びているが、コロナウィルス対策としての在庫積み増しの影響度はどれくらいか。
A-2	半導体材料の売上としては、20%以上伸びている。コロナ禍でサプライチェーンの中で在庫が増えている可能性はあると思うが、純粋に数量ベースでも20数パーセントは伸びてきている。
Q-3	設備投資と減価償却の来期以降の見込みは？
A-3	中期計画において5年間で200億円の設備投資を計画しているが、昨年と今年で4割強が終わるので今後、年間20億円レベルに戻ると思っている。 減価償却がいちばん増えるのは2021年で30億円近くになる見込み。
Q-4	EUV関連の売り上げについて。
A-4	昨年は試作品というレベル。今年から1億円前後だが、定常的に販売できる製品が出来てきた。

Q-5	ArF モノマーのポジション、競合、設備投資について。
A-5	<p>半導体レジストの中身は、ポリマー、溶剤、その他。レジストの基本性能はポリマーによる。当社はポリマーをつくるための原料モノマーを製造している。</p> <p>競合は何社かあると思うが、韓国が多い。</p> <p>半導体用モノマー新設備は昨年稼働しているが、半導体関連の市場が激変している。設備増設をしようとする計画と建設で2年はかかるのでそれくらいの感覚で計画していかなければならない。</p>
Q-6	レジスト樹脂のタイプについて。
A-6	ArF はアクリル酸エステルが主成分だが、EUV はスチレン系が主骨格。当社は添加剤的な材料を提供している。当社は ArF がメインだが EUV 材料にもアクリレートの特徴を生かした材料も使われるので EUV の市場も伸びてほしい。
Q-7	各セグメントの営業利益率について。
A-7	<p><化成品></p> <p>利益率はもともと3%であったが統廃合が進み8%になった。今後、10%前後を維持したい。</p> <p><電子材料></p> <p>半導体材料はとても好調であった。LCD は苦戦していたが、コロナの影響で台湾の稼働率が上がった。有機 EL 用の材料が上期から販売できた。ただ、今後台湾は稼働率の関係から落ち込むと予測している。</p> <p><機能化学品></p> <p>機能化学品は、化粧品原料などのおかげで10%台を維持しているが、新規材料を提供して伸ばしていきたい。</p>

以上